

苗木遠山史料館

苗木領ゆかりの品々を展示している。戦国時代から江戸時代にかけての藩の歴史を、遠山家や歴代領主 12 代を中心に展示している。

苗木城のジオラマ

江戸時代末期の苗木城の姿を立体的に表現したジオラマ。南側に木曾川、高森山頂に天守閣という配置で、かつての大城郭を構成していた様々な建造物を詳細に見ることができる。

風吹門

風吹門は、苗木城で唯一現存する木造の上部構造の門である。城下町から一番外側の郭（三の丸）への入口にあった。江戸時代、大名は徳川幕府から江戸に屋敷を構え隔年で住み、将軍を待つことを義務づけられていた。風吹門は、大名が苗木にいるときは開いていたが、江戸に出仕しているときは閉じられていた。

徳川秀忠からの直筆書簡

二代将軍徳川秀忠（1579-1632）が遠山友政に宛てた 2 通の書状が残されている。最初の手紙は、「勝栗」と呼ばれる土地のお菓子、干し栗を一箱送ってくれたことへのお礼である。「かち」は殻を剥いた栗のことを意味すると同時に、「勝ち」の同音異義語である。戦時中の贈答品や戦勝祈願のお守りとして贈られることが多かった。徳川家康（1543-1616）率いる軍勢が石田三成（1560-1600）率いる軍勢を破り、徳川幕府成立への道を開いた 1600 年の関

ヶ原の戦いの頃に、この手紙は届いた。2通目の書簡は、友政が夏物の衣を贈ったことに感謝する内容である。

大名の日記

12代苗木領主遠山友禄の日記には、江戸時代の大名の日常生活が詳細に記されている。領主の日常生活が、さまざまなしきたりや義務によって徹底して規制されていたことがよくわかる。

射場

苗木城内には、弓や鉄砲を練習するための射撃場が2つあった。ひとつは二の丸にあり、もうひとつは本丸にあった。二の丸の射場は長さ約30メートル、幅約15メートル。また、剣術、槍術、射撃の練習にも使われた。

苗木城絵図

1857年に遠山友祥が描かせた苗木城の最大の絵図。江戸時代後期の苗木城を描いた貴重な絵図である。

武士の俸禄

享保7年(1722)当時の苗木領の家臣団をまとめたボード。家臣は重臣から足軽まで323家に及ぶ。領主は家臣に年2回、身分に応じて俸禄を支払い、その額は家臣の身分によって異なっていた。

農民の年貢

本書は苗木領の農民の年貢を記録したものである。税率は村の生産力によって異なり、低い村は15%、高い村は58%。平均は約29%。

動乱の時代

徳川幕府の崩壊後、苗木藩では動乱の時代が続いた。明治新政府は既存の藩制度を廃止する改革を行った。神仏分離令が出されたことで、苗木藩ではかなり積極的な排仏運動が起こった。

苗木藩と廃仏毀釈

1870年（明治3年）、苗木藩は領内の仏教寺院、仏像、経典、美術品などを破壊・焼却する政策を実施した。これは、藩内に平田派の国学が強く影響していたためと考えられている。明治政府は神道を国教とし、その政策は日本中の反仏教感情を煽った。2階には、この時代に破損した地蔵やその他の仏像が展示されている。